

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075400327		
法人名	ケア・サービス 株式会社		
事業所名	グループホームかえで		
所在地	福岡県鞍手郡鞍手町大字室木801番地		
	電話 0949-43-3900	FAX 0949-43-3901	

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成19年8月29日	評価確定日	平成19年9月20日

【情報提供項目より】(平成19年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年12月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	26人	常勤	12人, 非常勤 14人, 常勤換算 16.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1階建ての	1階～	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	光熱費 10,000円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有100,000円	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日 1,000円			

(4) 利用者の概要(8月20日現在)

登録人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	2名	要介護2	7名		
要介護3	6名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	2名		
年齢	平均 82.8歳	最低	57歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鞍手町立病院 有吉病院 日高歯科診療所
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「かえで」は周囲に飲食店等がある、静かな住宅地の一角にゆったりと建てられた2ユニットのグループホームである。ホームの理念に「ぬくもり・やさしさ・安心、地域とのふれあい」を掲げ、近隣にホームとの理解や協力をお願いしていることから、自治会への加入はないが、毎年ホーム玄関前の広い駐車場から盆踊りの巡回が始まったり、近隣の小学校の5・6年生の訪問があり交流を楽しんでいる。それぞれのユニットの特徴はあるが、施設長は児童福祉に関わった経験から入居者の尊厳に基づくケアを日頃から職員に伝えているので、職員は穏やかな温かみのある対応を行っている。入居者の生活歴や職歴に基づくケアの実践として、俳句に造詣のある入居者の作品をまとめてホームから講師者に送り、その内容をホームに掲示することで、入居者の生き方・考え方を支援したり、文化祭には入居者の作品を出品したりしている。町内の5グループホームに町から介護教室の委託があり、地域への認知症及び認知症ケアの周知のために、当ホームも受託している。また、健康フェスタでは、展示コーナーで介護相談を引き受けるなど、今後も地域密着型サービスとして更なる活躍が期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回の評価を活用し、緊急時・感染症マニュアルの作成、研修参加内容の伝達講習の実施、ヒヤリ・ハットや事故報告書の整備・再発防止の徹底、住みやすい生活空間の整備として居室や浴室の判断を工夫する等の取り組みがある。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価はユニットごとに全職員で取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)</p> <p>2ヶ月毎に適切なメンバーによる運営推進会議を開催し、グループホームの事業報告をしているが、参加者の意見や、前回の外部評価結果報告の記載がない。開催前に会議の案内をしたり、欠席の推進委員には内容を報告している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)</p> <p>重要事項説明書にホーム及び行政機関の苦情担当窓口を明記し、玄関に掲示したり、意見箱を設置し、家族の意見等は早急に対応している。家族がホームに来訪した折等に、入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭出納等を報告することで、意見等の表出を促している。成年後見制度の活用を促すために資料を整備したり、制度名を個人情報利用に関する書面に併記し玄関に掲示している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会には加入していないが、ホームの玄関前の広い庭から盆踊りの巡回が始まり、入居者も楽しみにしている。また、地域の文化祭に入居者の作品を出品したり、近隣の小学校の交流や健康フェスタで展示コーナーを引き受け介護等の相談に応じている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念である「ぬくもり やさしさ 安心 そして地域とのふれ合い」を玄関ホールに大きく掲示し、重要事項説明書にも明記している。又、かえで通信秋季号には、今回の法改正である「地域との交流の下」を明記している。	○	今回の法改正の「地域との交流の下」を、パンフレット、重要事項説明書にも謳っていただきたい。又、運営規程は認知症対応型共同生活介護の明記が求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念をミーティングで話し合い、実践している。理念の理解や実践を促すために、施設長は運営理念を新規採用職員に機会ある度に話している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入していないが、ホームの玄関前の広い庭から盆踊りの巡回が始まり、日ごろから近隣にはホームへの協力や理解をお願いするなど、よい関係作りがある。また、地域の文化祭に入居者の作品を出品したり、近隣の小学校の交流もある。	○	運営推進会議等から地域との交流が進みつつあるので、ホームでの行事を地域に案内し、更なる交流を促すためにも自治会加入もお願いしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はユニット毎に全職員で取り組んでいる。前回の外部評価を活用し、緊急時・感染症マニュアルの作成、研修参加内容の伝達講習の実施、ヒアリ・ハットや事故報告書の整備・再発防止の徹底、住みやすい生活空間の整備として居室や浴室の判別を工夫する等の取り組みがある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に適切なメンバーによる運営推進会議を開催し、グループホームの事業報告をしているが、参加者の意見や前回の外部評価結果報告の記載がない。開催前に会議の案内をしたり、欠席した推進委員には内容を報告している。	○	運営推進会議の内容をホームの運営に活かすために、報告した事業内容や外部評価結果に対する参加者の意見等の記載をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政から町内のグループホームに介護教室開催の委託があり、管理者を中心として認知症及び認知症ケアの周知に取り組んでいる。健康フェスタで展示コーナーを引き受け介護等の相談に応じている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の研修に参加し、制度説明の資料を整備しているが、入居者や家族に制度の説明はしていない。	○	入居時等の機会に、入居者や家族に制度を説明し記録の整備をお願いしたい。また、職員会議や運営推進会議で制度の周知をお願いしたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居者の暮らしぶりは、家族等が訪問した折に伝えている。定期的な受診を支援し、心身状況に応じて随時家族に連絡しているが、定期的な健康診断は受けていない。日用品購入の預かり金は、個別の出納帳を作成し家族のサインがある。職員の交代等は適宜入居者や家族に伝えている。	○	入居者の暮らしぶり等を家族に連絡した記録や入居者の健康管理のため定期健康診断受診をお願いしたい。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に行政機関やホームの苦情担当窓口を明記し、玄関ホールに掲示している。ご意見箱を玄関に設置し、家族の意見等は早急に対応しているが、運営推進会議に出席した家族代表の意見等の記載がない。	○	家族と良好な関係作りをしているので、家族会の発足を願いたい。また、運営推進会議での家族代表の意見等の記録が望まれる。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同法人が運営する小規模多機能ホームの開設に伴い、一時的に職員の異動があったが、随時以前の配置にもどしている。離職を防止するために、職員の希望に沿って配置転換したり、新規採用職員とホームの理念について話す機会を設けている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員の採用時には、性別・年齢等の条件はない。雇用契約書や就業規則を整備している。職員の休息の場も確保し、職員がいきいきと働ける環境作りをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	施設長は虐待防止に関する研修に参加し、全職員に人権を尊重するケアについて話しているが、研修実施記録がない。身体拘束防止マニュアルや虐待防止に関する書面を整備している。	○	介護サービス従業者の人権学習は必須であるので、身体拘束・虐待防止等のマニュアルを活用した研修実施や記録の整備が求められる。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加したり、外部研修内容の伝達講習をしているが、年間研修計画や職員の段階に応じた研修実施がない。職員のストレスや悩みは施設長が話を聞くことで解消している。	○	年間研修計画を作成し、職員のスキルアップに努めていただきたい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長や管理者は地域の同業者と交流し、アドバイスや情報を交換している。今後は地域のグループホーム協議会に加入予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム設立当初は、ホーム見学や体験入居から入居に至ることが多かったが、ここ1年は医療機関からの入居や緊急入居もあり、家族と頻回に電話等で相談しながら、ホームに徐々に馴染ってもらっている。	○	更なる関係づくりのために入居者の生活歴・職歴等のアセスメントや記録が求められる。
電話					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者に料理・園芸・書道・俳句等教えてもらうことが多く、人生の先輩として接しているが、梅干づくりやラッキョウ漬け、里芋のむき方等は入居者の得意とするところである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者の意向や心身状況を把握し、第1表に入居者の意向を記載しているが、職歴や生活歴の基本情報の記録が不十分である。	○	生活歴や趣味・職歴などの基本情報のアセスメントや記録が求められる。
J					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各入居者毎にアセスメントシートを活用し、個別的な介護計画を作成している。入居者や家族の意向等に沿って介護計画を職員間で話し合っているが、短期目標設定等の具体的な話し合いの記載がない。	○	具体的な短期目標を設定した介護計画作成をお願いしたい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎又は状態に応じて介護計画をモニタリングし、居宅サービス計画書第1・2・3表を作成し、入居者や家族に介護計画を説明し了承を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自主サービスとして医療機関受診の同行を支援し、重度化を防止している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関の受診支援や協力医療機関との連携で健康を管理している。医療機関からの指示等は、連絡ノートで職員に周知し、状況に応じて家族に連絡している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合について協力医療機関や家族等と話し合いをしているが、入居契約時に経口的に食事ができることをホームの入居条件であることを口頭で話している。重度化や終末期に向けた方針の整備はない。	○	重度化や終末期に向けた方針として整備をお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護に関する規程を整備している。個人情報の利用目的を明記した書面を家族に配布し、玄関ホールにも掲示している。訪問調査日、多動な入居者に全職員が穏やかに丁寧に対応しており、入居者の人権を尊重したケアが伺える。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間に合わせた食事の提供、間食、夜更かし、昼寝など入居者の希望に沿った暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の心身の状況に応じて食卓を分け、全職員が各テーブルで見守り、声かけ、食事介助等をしている。配膳・下膳・台拭きができる入居者に声をかけ、係わりを支援している。誕生会には外食や出前の食事を楽しんでいる。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴チェック表を作成し、最低でも週2回入浴を支援しているが、毎日入浴する入居者もいる。浴槽浴とシャワー浴を選んでもらうなどの工夫をしているが、入浴拒否者の場合は家族に相談したり協力をお願いしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の職歴・生活歴から、料理・園芸・俳句・習字等の楽しみごとを支援したり、ラジオ体操・カラオケ・折り紙・食事の準備等で役割を担ってもらっている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節の花見等や文化祭等の地域行事参加だけでなく、外食、近隣の散歩や馴染みの美容院の利用等で日常的に外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠が身体拘束であるとの認識があり、日中の施錠はない。入居者の生活パターンを理解し、外出傾向のある入居者には見守りをしているが、近隣へ理解や協力をお願いしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害マニュアルを作成し、連絡網・役割分担表を事務室に掲示している。非常災害避難訓練を年2回実施しているが、地域の協力までには至っていない。各ユニットに消火器を設置しているが、災害用備蓄はない。	○	運営推進会議等で非常災害時訓練について地域へ協力をお願いしてはいかがでしょうか。又、非常災害用備蓄の検討もお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は記載されているが、摂取カロリーの把握がない。既往症に応じた食事支援や心身の状況に応じて一口サイズのおにぎりにしたり、嚥下状態に応じて食形の工夫をしている。定期的な体重測定がない。	○	おおまかな食事カロリーの把握や定期的な体重測定と記録をお願いしたい。
おなが					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニット毎に広い玄関があり、てすりが設置されている。共用の空間には畳の間、食卓・椅子、ソファが置かれ、淋しいからと畳の間で寝る入居者もいる。金魚が飼われ、外のウッドデッキのプランターに季節の花が入居者の目を楽しませている。入居者の顔が見える対面式の台所から料理を作る音や美味しそうな匂いが漂っている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットはホームの備え付けであるが、心身の状況に応じてマットレスのみ使用している入居者もいる。収納スペースもあるが、箆箆等の馴染みの家具の持込もあり、個別性のある居室作りをしている。また、入居者の状況に応じて移動バーや電動ベット等のレンタルを支援している。		